

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町5-75

電話024-521-7723

発行者 富田昭夫

『今こそ「教風」の明示を！！』

県北教育事務所長 富田昭夫

昨年4月17日号の「内外教育」に、「校風・教風・学風」のタイトルで、上越教育大学 新井郁男名誉教授の記事が載っていました。新井先生が中国・上海の小学校を視察なさった時、学校要覧に校風と教風と学風の3つが書かれており、特に、教風が示されていることにハッとさせられたというのです。つまり「教風」という教える側、すなわち教師としての心構えをしっかりとみんなに分かるように明示されていることに驚かれ、『わが国の学校では、一般的に、学校教育目標は示されているが、教師の心構えを打ち出している学校をこれまでのところ見たことがない。わが国では教師の力量、指導力の向上が大きな課題になっているが、まずもって各学校では、教師の共通スローガンとしての「教風」を明確にすることが求められるのではないだろうか。』と書いています。

確かに、子どものあるべき姿や目指す児童生徒像は示されていますが、教師のあるべき姿や目指す教師像というのがはっきりしないため、保護者や地域の方々から「この学校の先生方は何を重視して、どんなふう子どもと接してくれるのだろうか。」「どんな心構えでやってくれるのだろうか。」「どんな行動指針をもっているのだろうか。」などが見えないという声を聞くことがあります。「自分たちはこういう考えで教育活動をするのだ。」としっかり宣言して、行動で示すことが大事ではないかと思えます。

5月下旬より学校訪問を行っています。域内の小・中・特別支援学校とともに県立学校も訪ねています。「学校経営・運営ビジョン」の中に「目指す教師像」を明示している学校もありますが、ごく僅かです。

今、学校は説明責任を問われ、学校評価が課題となっています。学校が公教育としての責任を果たし、適切な評価を行うためにも、「教風」を明示していただきたいと思えます。このことが特色ある学校づくりにもつながっていくものと思えます。如何でしょうか？・・・

指導課

◇◇◇学びの習慣を育てる事業◇◇◇



1 なぜ、学びの習慣が大切なのか？

平成20年度全国学力・学習状況調査の結果（福島県）から、子どもの生活と国語や算数・数学の正答率とに大きな関係があることが確認されました。特に下記のことからは、児童生徒の学力向上においては「学びの習慣」を育てることが大切であることが分かります。

自律的な行動（忘れ物がないかどうかの点検）と正答率との関係は？

- ・忘れ物がないかどうかの点検をしている子どもの方が平均正答率が高い傾向があります。
- ・授業では必要なものを自分で準備するといった自律的な行動を習慣化することが大切です。

「宿題への姿勢」「学習時間」と正答率の関係は？

- ・宿題をしている子どもの方が平均正答率が高い傾向があります。
- ・学校以外の普段の学習時間では、全くしてないもしくは1時間未満だと正答率が下がっています。長ければいいというわけではありませんが、時間を決め、集中して学習に取り組むことが大切です。

「読書、スポーツをする時間」との関係は？

- ・読書やスポーツに適度な時間をあてて取り組んでいる子どもの方が平均正答率が高い傾向を示しています。
- ・学習時間と読書やスポーツをする時間をバランスよく組み合わせて、どれも充実した時間となるように工夫することが大切です。

「テレビゲーム等の時間」との関係は？

- ・テレビゲームやインターネットをする時間が1時間未満と回答している子どもの方が平均正答率が高い傾向を示しています。
- ・テレビゲームやインターネットを時間を決めないでやりすぎると他のことがおろそかになりがちです。時間の使い方を工夫することが大切です。

「授業改善サポートブック」(福島県検証改善委員会)より一部抜粋

2 県北教育事務所としての取組

(1) 学力向上推進研究協議会の実施

年度当初の学力向上推進研究協議会においては、検証改善委員会作成の授業DVD(郡山市立薫小学校土屋教諭による算数の授業実践)をもとに研究協議を行いました。すぐれた授業実践をもとに、学力向上において授業の中で大切なことは何かということについて協議を深めました。さらに児童生徒の学力向上を図るためには、授業で学んだ学習内容の定着を図り、その理解を深めるための家庭学習の充実など、児童生徒の主体的な学びの習慣を形成することが大切であることを確認しました。第2回学力向上推進研究協議会は2月に実施する予定です。

(2) アンケート調査の活用及び実施

6月に「学びの習慣を育てるアンケート」を各学校に配付いたしました。福島県教育委員会のホームページにも掲載されています。ぜひ活用していただきたいと思えます。質問は13項目あり、学び方・学ぶことの意味・学習時間など、主体的に学ぶ上で大切なことについての設問となっています。また、県内全域から5パーセント程度の児童生徒を抽出し、県全体における児童生徒の学びの習慣について実態を把握いたします。すでに6月にアンケート調査を実施し、1月にも実施いたします。

(3) 希望校への指導助言

6月に、県北域内の各学校宛に、学びの習慣を確立するための講師派遣希望について通知しました。派遣希望のあった7校に、県北教育事務所より指導主事が伺い指導助言をいたします。

① 講師派遣希望のあった学校

伊達市立山舟生小学校、伊達市立白根小学校、桑折町立伊達崎小学校、二本松市立木幡第二小学校、二本松市立北戸沢小学校、二本松市立東和中学校、二本松市立岩代中学校

② 学習習慣に関する各学校のおもな課題

- ・授業と家庭学習を効果的に関連付けるにはどのようにしたらよいか。
 - ・「学習の手引き」を作成したが、効果的に活用するためにはどのようにしたらよいか。
 - ・家庭学習の取組が身に付いていない生徒が多い。主体的に目的をもって自律的に学習できるようにするにはどうしたらよいか。
 - ・学びの習慣を身に付けさせるために学校と家庭との連携をどのように図っていけばよいか。
- 学力向上において何よりも重要なことは授業の質的改善と充実です。そのためには、校内授業研究等を通して、教材研究を深めるとともに教師同士が切磋琢磨して常に授業力の向上を図ることが必要です。指導主事が各学校に伺い、現職教育のテーマに即してお話するとともに学びの習慣化についても指導助言していきます。

(4) 指導資料の作成

県北域内の各学校が作成している「学習の手引き」を参考にするとともに、次の点にふれながら児童生徒の学びの習慣を確立するための指導資料を作成いたします。

① 授業における学びの習慣の確立

- ・低学年・中学年・高学年の発達段階に即した学びの習慣化
- ・小中連携を意識した中学校1年生段階の学びの習慣化

② 家庭における学びの習慣の確立・充実

- ・子どもの自発性や計画性をはぐくむ。
- ・学習意欲を高める働きかけをする。
- ・達成感が持てるような宿題を与える。



